

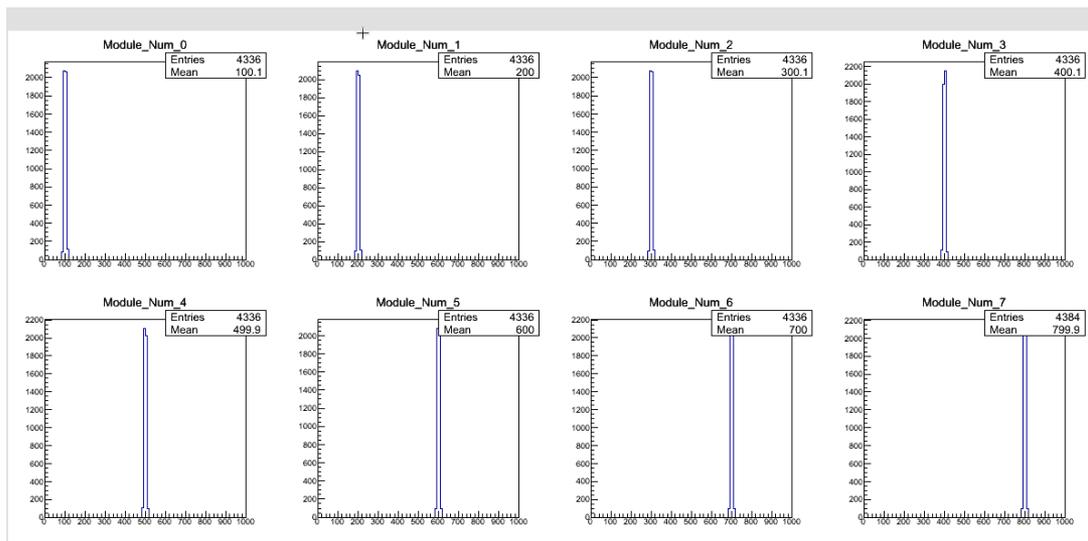
DAQ-Middleware講習会 実習例

開発マニュアルでの例題

- いずれもソース、コンフィギュレーションファイルは /usr/share/daqmw/examples/, /usr/share/daqmw/conf/の下にあります。
- Skeletonコンポーネントでの状態遷移の確認 (23ページ)
- コンポーネント間のデータ通信 (27ページ)
- エミュレータからのデータを読んでROOTでヒストグラムを書くシステムの開発 (31ページ)
- 上のシステムのコンディションデータベース化(58ページ)

その他の例 (1)

- SampleReader - Monitor の組み合わせ
 - モジュール番号ごとにヒストグラムを作り表示する
 - TCanvasを4x2に分割、ヒストグラムデータを8個作る、Draw()するまえにm_canvas->cd(1)などで移動



その他の例 (2)

- SampleMonitorで定期的に画像ファイル(gif, png)を作って、ウェブブラウザで見えるようにする(ウェブブラウザで自動リロードするようにする)

m_canvas->Print("/tmp/data.png") で
/tmp/data.pngファイルが作られる

開発マニュアルのデバッグ

- 開発マニュアルに書かれているとおりにやってみて、動くかどうか確認する。
- /usr/share/daqmw/examples/以下に全ソースがあります。
- 開発マニュアルで抜けているところがあれば教えてください

開発環境整備

- DAQ-Middleware開発グループが提供していない環境上で開発環境を整備する
 - omniORB、xerces-c、xalan-c、OpenRTM-aist 1.0.0 + patchが必要です。
 - DAQ-Middlewareは依存物さえあれば大丈夫なはず。